

## 平成 30 年度の海部会の活動進捗報告

### 海部会の目標とテーマ

海部会の平成 30 年度の活動テーマを以下に示す。

<テーマ>

豊かな海の再生

<解決手法>

○三河湾のアサリの資源回復に関する現状の課題について認識を共有し、解決に向けた取り組みを検討する。

### 今年度の活動実績

活動内容	日時	場所	議題
第 37 回WG (吉田) 19 名参加	7 月 30 日 (月) 13:30-16:30	吉田海岸 西尾市吉良支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉田海岸のアサリ漁場の現地視察</li> <li>・愛知県水産試験場の調査結果の概要説明</li> </ul>
第 1 回合同部会 WG (岡崎) 43 名参加	8 月 24 日 (金) 13:30-17:00	岡崎市宮崎学区 市民ホーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサリの漁獲量減少と海の栄養塩に関する研究事例</li> <li>・水質浄化に関する最近の研究事例</li> <li>・電気伝導率からみた矢作川本川の水質実態と流域構造の特徴</li> <li>・矢作川中流域の水質 —水質の長期変動と他河川との比較—</li> <li>・植生遷移に伴う水質の変化 —東大演習林における事例—</li> </ul>
第 38 回WG (吉田) 19 名参加	10 月 24 日 (水) 11:30-15:00	吉田海岸 西尾市吉良支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉田海岸のアサリ漁場の現地視察</li> <li>・アサリの減少と生息環境の変化について</li> </ul>
第 39 回WG (西尾市) 17 名参加	12 月 19 日 (水) 14:00-16:00	西尾市役所会議棟 第 4 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三河湾のアサリ減少と海の環境について</li> <li>・三河湾で不漁となったアサリの餌となるケイ藻のいま</li> </ul>
第 10 回まとめの会 (西尾市) 16 名参加	1 月 31 日 (水) 14:00-16:00	西尾市役所会議棟 第 4 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動進捗報告</li> <li>・次年度の活動計画</li> </ul>

※参加人数は事務局含む

## 海部会 平成 30 年度の活動成果 まとめ

### ■三河湾におけるアサリ漁業実態の情報共有

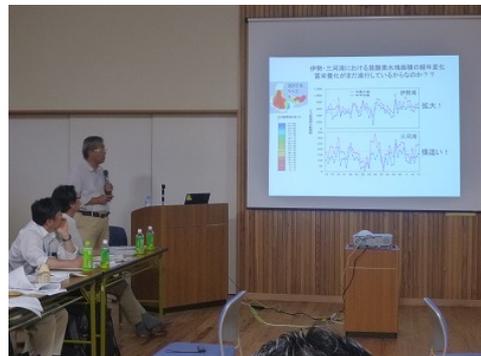
- ・吉田海岸アサリ漁場を現地視察し、吉田漁業協同組合の石川組合長から近年のアサリ漁獲量の変動と海の環境変化について話題提供をいただき、三河のアサリ漁業の実態について情報共有を行った。
- ・水質の排水規制と海の貧栄養化の関係、アサリの生息限界について、最新の研究事例と知見について鈴木副座長から解説を頂き、情報共有を行った。



吉田海岸アサリ漁場での現地視察

### ■合同部会への参加

- ・矢作川の水質をテーマとした山、川、海の合同部会に参画し、鈴木副座長が三河湾におけるアサリの漁獲量減少と海の栄養塩に関する研究事例、伊勢・三河湾流域ネットワーク) 井上祥一郎さんが水質浄化に関する最近の研究事例について発表されたほか、山、川部会員から発表された各種テーマについて情報共有と意見交換を行った。



鈴木副座長による合同部会での話題提供

### ■愛知県水産試験場による調査結果の情報共有

- ・三河湾におけるアサリの資源回復に向けた取り組みとして、愛知県水産試験場が実施したアサリの生態と環境条件の各種調査結果について、(全国水産技術者協会) 石田基雄さんから解説を頂き、情報共有を行った。



愛知県水産試験場による調査結果の解説

### ■アサリの餌となるケイ藻についての話題提供

- ・井上祥一郎さんから、アサリの成長に寄与する餌料生物＝ケイ藻の基本的な知識と矢作川流域にどのような変化が起きてきたかを解説して頂いた。



アサリの餌となるケイ藻の解説

## (2) 今年度の活動成果

### 《三河湾におけるアサリ漁業実態の情報共有》

吉田漁業協同組合の石川組合長から、近年の三河湾におけるアサリ漁業の実態と海の環境変化について話題提供をいただいた。

- 愛知県水産試験場が公表したアサリの漁獲量（平成 18 年度以降）の推移をみると、知多では平成 28 年以降漁獲なし、最も多く獲れていた西三河でも平成 29 年時点で 88 トンにまで落ち込んでいる。
- 水産試験場の調査では、10mm に満たない小さなアサリが産卵するという事実がわかり、また秋の産卵後の食べ物が海にないことが予想されている。
- ノリに関する栄養塩調査で海水のリンの値が調べられており、平成 25 年くらいから右肩下がりとなっており、矢作川浄化センターのリンの処理量に反比例して減少している。
- 我々は現在の放出量の 2 倍～3 倍の放出量を試験的に実施していただくようお願いし、昨年 11 月から 3 月まで実施した結果、感覚的ではありますが光沢や触感の良好なノリが生産できるようになったと感じている。



### 《水質の排水規制と海の貧栄養化の関係および行政の取り組み》

鈴木副座長から、海の貧栄養化対策として昨年から取り組まれている矢作川浄化センターの管理運転の概要、周辺自治体の取り組みについて話題提供をいただいた

- 昨年、矢作川浄化センターの管理運転が実施されたが、これによって海に供給される窒素、リンの量が大幅に増加している。特に今年の冬を越せるどうかは 1 か月前の状態が重要である。自動観測の結果を見る限り、去年よりはいいのではという見解である。
- ただ、冬に温度が高いと基礎代謝が高まり、餌量が増えたとしてもそれを消費してしまう心配もあるが、劇的に回復する可能性もあると思う。
- 管理運転で成果があるという話で広がっていることから、市町の公共下水道もそれにならう方向で動いており、田原市、常滑市、蒲郡市などでは窒素、リンの放流濃度を上げる取り組みが実施されている。県漁連が管理運転の要望をあげて、県が実施をしたということは大きな原動力になっていると考えている。
- 国の環境行政は海の環境が劣化しているスピードについていけない。環境の変化は緩やかに起こるといふ先入観がある。アサリの生死の成長モデルは基準値を超えると全滅になる。今回の瀬戸内、三河湾の件で環境省も前向きにとらえるようになってきたと思う。

